



Orchestra Performances
for Children

子どものための オーケストラ

“魔法”を届ける
Sharing the “Magic”



感性に火をともし

“魔法”

“Magic” to Ignite Emotions

オーケストラには、“魔法”とも言えるような、不思議な力があります。

魔法のかかり方は、人によってさまざまです。

心にのしかかっていたものが軽くなったり、忘れていた記憶が甦ったり、
心の中で何かが動き出したり。

効き目が現れるまで長い時間がかかることもあります。

何年も経ってから、あの時の体験が自分の転機になっていたんだ、
と気づくこともあるかもしれません。

とりわけ、柔らかい心を持った子どもたちにとって、オーケストラに触れることは、
その後の成長に大きな影響を及ぼす可能性を秘めています。

日本各地のプロオーケストラは、
子どもたちが音楽で心を揺さぶる体験ができるように、
さまざまな地域で演奏活動に日々取り組んでいます。

これからも、若い感性に火がともる機会を、大切にしていきたいと考えています。

このパンフレットの成り立ちと、掲載しているデータについて

日本オーケストラ連盟は、2015年から2016年にかけて、日本のオーケストラが子どもたちに届けている“魔法”の効力を調べるプロジェクトを実施。文化庁の事業などでオーケストラが訪問している日本各地の小学校（全国21校）で、計3,000人近くの子どもたちを対象としたアンケートを行いました。多くの方々の温かいご協力によって得られた調査結果が、このパンフレットには掲載されています。



心が動き出す

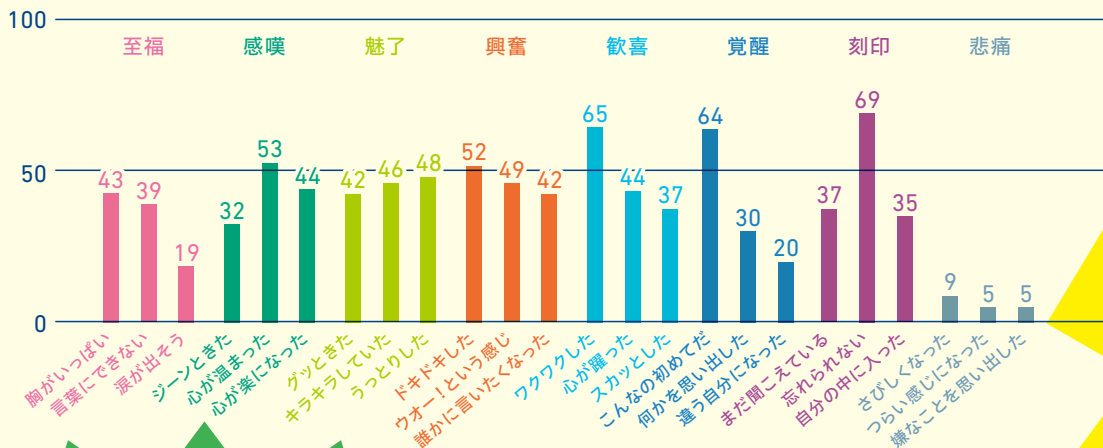
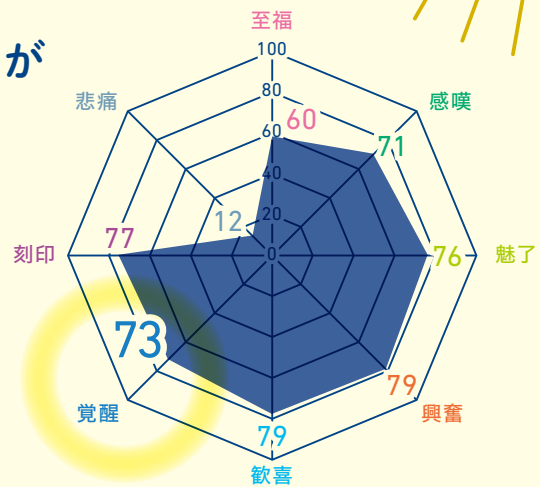
Stirring Hearts

オーケストラが奏でる音楽を浴びると、胸がいっぱいになる、安らぎを感じる、胸が熱くなる、心が躍る、あるいは衝撃を受けるなど、さまざまな感情が湧き上がります。なかなか言葉にできない、でも誰かに伝えたいくなる……こうした経験をするのは、子どもたちの成長にとって大切な足がかりになります。オーケストラと過ごした時間は、7割以上の子どもたちにとって、「自分の中で何かが変わった」と感じさせる、心が動き出すきっかけとなっています。

オーケストラに触れた子どもたちが 感じている心の動き

子どもたちの心の動きを、8つの視点からきめ細かく調べたものです。オーケストラとの音楽の時間を過ごした直後に、その時の気持ち・感覚をアンケートで尋ねています。

単位：％
回答者数：2,944人（小1～小6）



73%

「覚醒（自分が変わった）」
と感じている子どもたちの割合

※覚醒の「73%」は、「こんな初めでだ」「何かを思い出した」「違う自分になった」のいずれかにあてはまると感じている小学生の割合です。

ふしぎだった つらかった うれしかった
(留萌市立東光小学校、4年生)

心がかまれてうげなくなるくらいだった。
(府中市立府中第八小学校、4年生)

とても勇気がわいてきてたのしかった。
(鳥取市立美和小学校、5年生)

心がわくわくした。心があこがれると思った。
(広島市立瀬野小学校、6年生)

なぜいつもの自分とはちがう自分になった。
(札幌市立大谷地小学校、6年生)

気持ちが変わる Changing Feelings

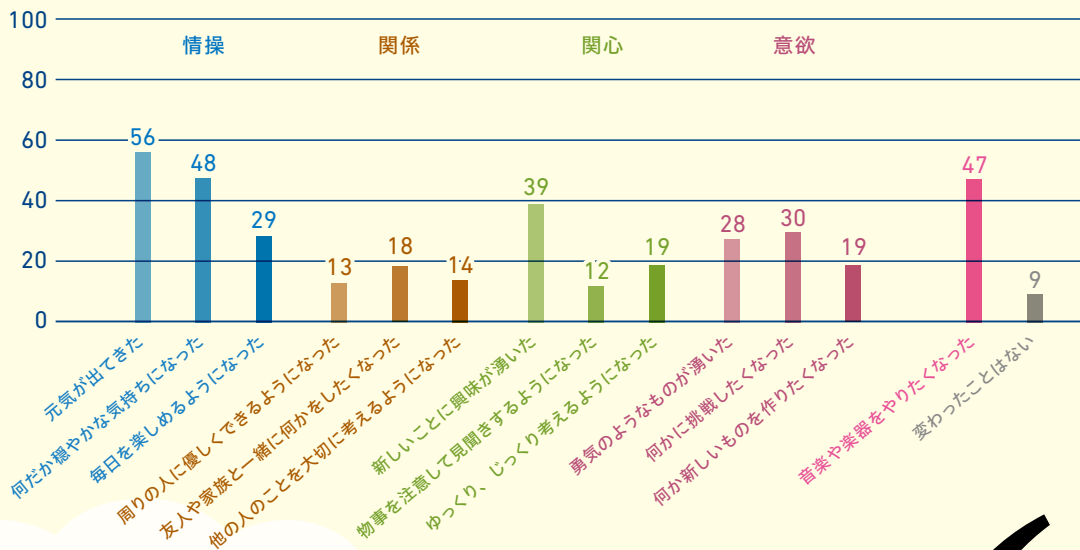
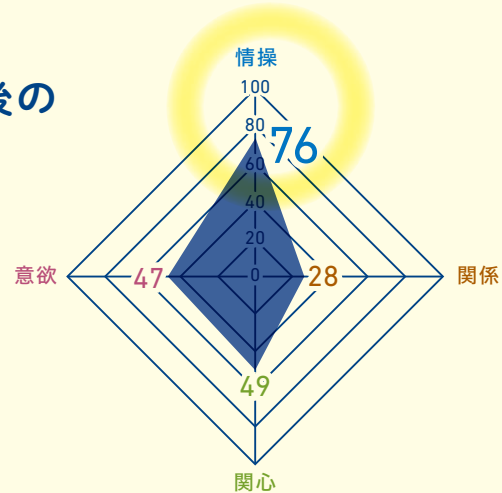
オーケストラと過ごした時間は、時に急激に、時にじわじわと、多くの子どもたちの日常を変えていきます。元気に、前向きになることや、人との関係をより円滑に結べるようになること、新たな関心を持つこと、さらには何かに挑戦したくなることも含めて、幅広い“魔法の効力”が確認されています。

オーケストラと時間を過ごした後の子どもたちの気持ちの変化

オーケストラとの音楽の時間から半月ほど経った後に、子どもたちに自分の気持ちの変化を尋ねたものです。「情操」「関係」「関心」「意欲」の4つの視点から、変化の様子を探っています。

単位：%

回答者数：2,087人（小3～小6）



きれいな音楽がとてもさい高で、
おだやかな気持ちでた。
(三条市立大面小学校、3年生)

とても心があたたかくなりゆたかになった。
(仙台市立住吉台小学校、4年生)

とても心がすっきりしたし、えんそうもすごく
今もたまに頭の中で流れています。
(入善町立黒東小学校、6年生)

生のオーケストラを聴くことで、体にひびいてくる音楽や、美しいハーモニーなどに感動する心を得ることができると思います。また、様々な楽器を見ることで、興味をもち、新しいことにチャレンジしようと思う心が芽生えるのでは、と思います。(教員、女性 20代)

76%

情操面で
ポジティブな変化
を感じている子どもたちの割合

※ 情操の「76%」は、「元気が出てきた」「何だか穏やかな気持ちになった」「毎日を楽しめるようになった」のいずれかにあてはまると感じている小学生の割合です。

未来をひらく Expanding Future Possibilities

オーケストラとの出会いは、さまざまな形で子どもたちの人生も変えていきます。子どもの頃にオーケストラに触れたことが、未来をひらく大切なきっかけになった方々の声をご紹介します。



小学生のとき初めて聴いたベートーヴェンの交響曲第六番「田園」は、その情景が自分なりにイメージ出来、今も心の奥で美しく鳴り響いています。オーケストラが奏でる美しい音楽は、その後も私の人生を深く豊かにしてくれ、経営者となってからも、想像力を高め、新しい道を示唆してくれる生涯の友です。

三井住友フィナンシャルグループ会長
奥 正之



小学生の時に、初めて小編成のオーケストラの演奏に体育館で触れました。愛読していた宮沢賢治の「セロ弾きのゴーシュ」の世界を間近にした昂奮をよく覚えています。中学生になって、クラシック好きな級友たちと演奏会に行くようになり、〈命がけのティンパニー〉などと、演奏の印象を拙いながらも比喻を駆使して言葉にしてみる事が、自分の文章表現の原点だったように、いま振り返ってみると思えます。

小説家
佐伯 一麦

© 佐々木隆二



小学生の時に初めて聴いたドヴォルザークの交響曲第九番「新世界より」でオーケストラって格好いい!と感じてからたくさん楽器や曲や演奏家を覚えました。今でも演奏会に行くたびにワクワクします。

そう、オーケストラはいくつになっても「新しい世界」そのものです。

私はふだん番組でも頭の中で様々な音楽を想像しながら話します。いつも音楽と一緒にです。

テレビ朝日アナウンサー
坪井 直樹



僕も演技に使用するクラシック音楽には、夢や、エネルギーや、美しさといった、素晴らしいものがたくさん詰まっています。子どものうちに、クラシック音楽の素晴らしさにたくさん触れることは、とても大切なことだと思います。

フィギュアスケート選手
羽生 結弦



無限大

子どもたちの将来に向けた可能性



曲は、力強い音で、一つずつの音がぴったり合わさって、
走って近づいてせまって来る感じがした。
目をとじて聴いていると、もうそこにいるみたいだった。
ぼくの心ぞうも、ドクドクしてきた。

(和歌山県田辺市立田辺東部小学校、4年生)



公益社団法人 日本オーケストラ連盟
Assosiation of Japanese Symphony Orchestras

〒130-0013 東京都墨田区錦糸1-2-1 アルカセントラル棟7F
Tel: 03-5610-7275 Fax: 03-5610-7276
<http://www.orchestra.or.jp/>

2016年6月発行